

「レジリエンス・ワークショップ2013」を開催しました (2013/10/11)

テーマ：東日本大震災、レジリエンス、ビッグデータ、IT&ICT、スマートシティ

10月11日(金)(10:00~18:00)、東北大学工学部中央棟大会議室において、災害科学国際研究所と日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所の共催による「レジリエンス・ワークショップ2013~震災からの復興を加速するレジリエントな社会を目指して~」を開催しました。仙台市、(独)科学技術振興機構、(株)河北新報社、東北大学最先端電池基盤技術コンソーシアムにも後援していただきました。

本ワークショップは、チリ国住宅都市開発省副大臣兼次官による招待講演を含む8件の発表とパネルディスカッションにより構成され、一般市民を含む約100名が参加しました。今村文彦教授(災害科学国際研究所副所長、災害リスク研究部門)の開会の挨拶に続き、当研究所の寺田賢二郎教授(地域・都市再生研究部門)と柴山明寛准教授(情報管理・社会連携部門)の他、梅内淳氏(復興事業局)、寒川誠二氏(東北大学流体科学研究所)、Francisco Irarrazaval Mena氏(チリ国住宅都市開発省副大臣)、四日市正俊氏(内閣府)、寺沢計二氏((独)科学技術振興機構)、渡辺日出雄氏(日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所)、西 祐一郎氏((株)ウェザーニューズ)が、IT技術から社会制度など幅広い視点から、復興を促進する施策やレジリエントな社会を構築するための取り組みなどについて発表しました。これらに続くパネル討論では、モデレータである渡辺日出雄氏が司会を務め、パネリストの今村文彦教授、平 久大氏(仙台市消防局)、古関良行氏((株)河北新報社)、寺沢計二氏が、レジリエントな社会・都市の実現するための3つのテーマ「継続性」「ビッグデータ」「連携」について意見を交わしました。そのなかで今村教授は、レジリエントな社会の実現には、(1)科学的知見からの政策提言とその(2)世界標準化、(3)現場への適用、(4)実証というプロセスを踏むことが重要であると述べるとともに、2015年に仙台市で開催される国連防災世界会議に向けて、当研究所 情報管理・社会連携部門の小野裕一教授が提案している「世界防災フォーラム(仮称)」の設立も視野にいた、グローバルかつ継続的な取り組みの必要性を強調しました。最後に、日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所 所長の森本典繁氏の挨拶で閉会しました。また、翌日の河北新報にも結果が紹介されました。「災害時早期復旧を議論 東北大で社会づくりシンポジウム」<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/10/20131012t11034.htm>



Francisco Irarrazaval Mena 氏
(チリ国住宅都市開発省副大臣)



パネルディスカッション

文責：寺田賢二郎(地域・都市再生研究部門)